

第1回 彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会

日 時 平成30年(2018年)6月1日(金)14時30分～16時30分

場 所 彦根市勤労福祉会館2階 研修室

○地域経営・地方創生推進室長

大変お待たせいたしました。本日はお忙しい中、ご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。ただいまから第1回彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会を開催させていただきます。

早速ですが、議事に先立ちまして、皆様方に市長から協議会委員の委嘱をさせていただきたいと思っております。本日は窓側の席から50音順にお座りいただいておりますので、その順番で委嘱させていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

(委嘱状の交付)

○地域経営・地方創生推進室長

ありがとうございました。

それでは初めに、市長よりご挨拶を申し上げます。

○市長

皆様、改めましてこんにちは。一言ご挨拶を申し上げます。

それぞれの委員の皆様には、大変お忙しいところご出席を頂戴しまして、ありがとうございます。

また、委員へのご就任をお願いいたしましたところ、快くご就任をいただきましたこと、心から改めて厚く御礼申し上げます。

この推進協議会については、委員を新たにお願いする方も、引き続きの方もおいででございますが、よろしくお願い申し上げます。

この協議会はまち・ひと・しごと、地方創生の大きな戦略の中で私どもが目標数値を設定しまして、皆様方からのご意見も頂戴しながら、PDCAサイクルを時々皆様方に確認をさせていただきながら進めていくという大きな政策の一環でございます。

彦根市におきましては、平成27年10月1日時点の人口が11万3,679人ということであり、国立社会保障・人口問題研究所が出されました数字を現在のところ若干上回り、健闘していると私どもは受けとめておりますが、今後はやはりそのような全国的なト

レンドに傾いていくんだらうということも予測されるわけでございます。

しかし、そうした状況を何とか食いとめていくということが彦根市の大きな課題でございますが、そのためにはこのまちが持つ地域資源をしっかり磨き上げて、魅力あるまちづくりを進めていくことが重要だと考えてございます。

そのためには、目標を定めて、その目標の中の、4つ目標を挙げさせていただいておりますが、それぞれ目標数値をきちっと設けて、産官学金労言、各界各層の皆様方の代表した方々にご参画をいただいて、こうした目標の達成に向けて努力をしていくということが重要だと思っております。

今日はこうした見直し作業を時々させていただいて、皆様からのご意見を頂戴して練り直していくと、あるいは目標の確認をしていくという、この地方創生の大きな政策の中で求められている、定められている仕組みの一つでございます。

今日は限られた時間でございますが、それぞれの近況も含めて我々の出させていただく状況も評価をしていただいてご助言を賜り、さらに地方創生の推進につなげていきたいと考えてございますので、よろしく願いいたします。ありがとうございます。

○地域経営・地方創生推進室長

続きまして、本日は第1回目の協議会でございますので、初めに委員の皆様のご自己紹介をお願いしたいと思います。

会議録を作成する関係上、会議の発言に当たりましては、最初にマイクのスイッチを入れていただいて、お名前をおっしゃっていただいてご発言をいただきますようによろしく願いをいたします。発言が終わりましたらスイッチをお切りください。

(委員自己紹介)

○地域経営・地方創生推進室長

続いて、事務局から自己紹介をさせていただきます。

(市側、事務局自己紹介)

○地域経営・地方創生推進室長

ありがとうございました

委員の皆様方におかれましては、協議会の運営につきまして、どうぞよろしく願いをいたします。

次に、お手元の資料1「彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会設置要綱」をごらんいただきたいと思います。

その中の第6条第2項に、「協議会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない」という規定がございます。

本日は、委員の方が6名ご出席いただいておりますので、会議が成立しますことをご報告申し上げます。

それでは、本日の議題に入ります前に、先ほどの資料1、要綱第5条第1項に、「協議会に会長を置き、委員の互選により定める」という規定がございますことから、会長の選出をしていただく必要がございます。

会長が決まりますまでの間、僭越ではございますが、私が進行をさせていただきたいと思っておりますので、ご了承のほどよろしく願いいたします。

さて、同条の規定では、委員の互選により定めるとなっておりますが、差し支えなければ事務局案を提示させていただきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

(会長選任)

○会長

ただいま当審議会の会長を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

先ほども大久保市長からご挨拶がございましたように、平成27年度からまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定されまして、平成28年度から当協議会におきまして、KPIを用いてその成果について検証されているところです。

今年度につきましても、そのことについてPDCAサイクルを回されて、検証して、さらにそれを確実なものにしていこうという取り組みでございます。この協議会というのは、非常にその意味では重要な役割というふうに考えられます。したがって、皆様もご協力よろしくお願いいたしますと思っております。

総合戦略というのは、先ほど大久保市長からお話ございましたように、「魅力ある安定した雇用が生まれるまちづくり」、それが1つ目。2つ目としまして、「次代を担う子供たちを安心して産み、育てることのできるまちづくり」、3つ目が、「若者のチャレンジにより、新しい人の流れが生まれるまちづくり」、4つ目が、「時代に合った地域の中で、安心な暮らしを守るまちづくり」。この4つの基本目標というのがございます。

これらの4つを達成するために総合戦略を進めていくということで、特に我々が担うのは各施策の成果の検証ということでございまして、取り組みをより効果的・効率的に実施

していくために必要不可欠な審議会でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

先ほども言われましたように、産官学金労言という、あらゆる機関が参加してこれを検証し、さらにブラッシュアップして効果的なものにしていくということでございます。

委員の皆様におかれましても、戦略の取り組みが効果的なものとなりますように、皆様のご協力をお願いしたいということです。ということは、ここで審議するということで、皆さんのいろんな意見を出していただいて、あらゆる角度から議論させていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○地域経営・地方創生推進室長

それでは、ここからは会長に議長として進行をお願いしたいと思います。

ご意見のある方は、挙手の上、会長の許可を得ていただいてから発言をお願いいたします。

それでは会長、議事の進行をよろしくお願いいたします。

○会長

それでは、ただいまから議事に入りたいと思います。

本日は第1回目でございますので、まず事務局から本協議会の運営についてご説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局

(事務局説明)

○会長

ご説明ありがとうございました。

ただいまのご説明で何かご不明な点、ご質問ございましたらお受けしたいと思います、いかがでしょうか。よろしゅうございますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○会長

特にないということで、では資料1の要綱第5条の第3項ですね。会長に事故があるとき、または会長が欠けたときは、会長があらかじめ指名する委員のその職務を代理するという規定がございます。

(職務代理者選任)

○会長

ありがとうございます。

それでは、よろしくお願ひしたいと思ひます。

続きまして、本日の議題1に入りたいと思ひますが、年間スケジュールにつきまして、まず説明させていただきます。これも事務局のほうからご説明をお願ひしたいと思ひます。よろしくお願ひします。

○事務局

(事務局説明)

○会長

ありがとうございました。

ただいまの事務局からの説明でございますが、何がご質問ございますでしょうか。

よろしゅうございますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○会長

それでは、続きまして議題2のまち・ひと・しごと創生総合戦略の概要についてご説明をいただきたいと思ひます。

これにつきましても、事務局のほうからお願ひしたいと思ひます。

○事務局

(事務局説明)

○会長

ご説明ありがとうございました。

ただいまの事務局からの説明、概要についての説明、何かご不明な点あるいはご質問ございましたらお伺ひしたいと思ひますが、いかがでしょう。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○会長

では、特にご質問ないようですので、次に進めさせていただきます。

それでは、続きまして議題の3ですね。地方創生推進交付金事業につきましてでございます。

これにつきましては、国の交付金を受けて実施された事業ということでございまして、個別に事業の評価をすることとされております。したがいまして、この場で評価をお願ひするということになります。

それでは、詳細な事業の概要につきまして、事業の所管課からご説明をお願ひしたいと

思います。よろしくお願いいたします。

○地域経済振興課長

それでは、地域経済振興課のほうから説明をさせていただきます。

まず、資料の3をごらんいただきたいと思います。

地方創生推進交付金実施計画（抜粋）でございます。

まず、交付対象事業といたしまして、近江「美食都市」推進事業でございます。

事業の概要および目的につきましては、観光客の訪問において、本市につきましては「食」と「買う」という大きな要素はございますが、本市におきまして豊富な歴史遺産などの観光資源と比較しますと、「食」と「買う」という部分につきましては充分ではないということで、これを強化するという意味で一般社団法人近江ツーリズムボードが実施いたします事業に対しまして、補助を行うものでございます。

具体的に申し上げますと、農産物への投資や活用方法の開発をいわゆる農商工連携で行うということで、新規マーケットを拡大するとともに生産拡大を図る。

それから、地域産物の磨き上げや地域料理人の技術力向上と育成を図るためのセミナーだったり、それから料理グランプリなどの企画による評価制度の確立でございます。

それから、地域産品を活用いたしましたフードカーをレンタルするというものでございまして、起業家を募集し、廉価でレンタルを行いまして、起業の促進を図るということでございます。

さらに、以上の幾つかの取り組みにつきまして、本市ならではの国宝彦根城の城域を活用いたしまして、いろいろな組み合わせを図った取り組みを実施するものでございます。

また、これらを複合的に行い、相乗的な効果を生み出すことを狙った各種の取り組みをDMOが総括的にプロモーションするというようなことで、大きな効果を狙うものでございます。

事業の概要、交付金を充当する経費内容ということで、大きく6つの項目がございます。

まず、1つ目といたしまして、地域産品の調査・発掘・評価ということでございます。

こちらにつきましては、彦根市周辺地域でございます2市4町の食材に関しまして、調査研究、付加価値の高い製品のブランディング等を行うということでございまして、国内外の著名な飲食店への食材提供や食品業界へのプロモーションにより、新規マーケットを開発していくというものです。

さらに、彦根市周辺地域の食材を整理、発信するため、「近江食材カレンダー」、「近

江ガストロノミーマップ」を作成し、重点食材等をピックアップするというものでございます。

2つ目につきましては、一流料理人によります料理セミナーの開催ということでございまして、「近江食材」の可能性開発、調理開発、地域料理人育成のための料理セミナーの開催につきまして、年6回程度実施するというものです。

それから、一流料理人と地域料理人との個別交流も促進し、一流若手人材の育成、誘致、交流を活性化させるというものでございます。

3つ目といたしまして、地域産物の料理グランプリの開催ということでございまして、平成29年度は2年目ということでございまして、プロの料理セミナーの開催後、地域料理人が各々そのノウハウを活用し参画するグランプリ、いわゆる「近江ケータリンググランプリ」を年1回開催するというものでございます。提供可能な近江食材に関するレギュレーションも加えていくというものでございます。

4つ目といたしまして、DMOによる広報プロモーションということでございまして、グランプリの上位料理を優先的に会合や行祭事、ツアーのフードとして活用し、料理とともに旅行プロモーション素材としても積極的に活用するというものでございまして、国内外のシティプロモーション、販売促進と活用ということで、「近江ガストロノミーマップ」や本事業・既存の広報物を複合的に活用することによって、魅力のある彦根周辺地域を発信するものでございます。

5つ目といたしまして、フードカーの開発ということで、フードカーを購入し、レンタル事業の基盤整備を行うというものでございます。3台購入し、同時に歴史観光資源周辺の出店可能箇所を随時増やし、付加価値を高めるということでございまして、場所としましては彦根市内、多賀大社周辺、湖東三山等でございます。スペシャリティのある出店可能スペースのストックが増えることに伴い、全国のフードカー専用出店斡旋事業を展開するというものでございます。出店につきましては、近江食材を使用するという方を優先的に紹介いたします。

最後に、地域産品による食企画での集客ということでございまして、彦根城域を活用して食とライトアップを組み合わせた集客イベントを開催ということで、梅林400本をテーマとした食とライトアップを組み合わせた集客イベント「ひこね梅と食と光のフェア」を検討いたしました。

この場合、効果的な梅林のライトアップと「近江ケータリンググランプリ」のグランプリ

リレシピやフードカーも合わせるによりまして、洗練された光と食と梅のコラボレーションを演出し、食と光で梅林を演出することで、花見の語源ともなります「梅見」の雰囲気を一層高め、桜だけではない新たな彦根城の楽しみを演出しようとするものでございます。

同時に、食企画イベントをテーマ別に増加させまして、同時に持ち運びができるイベント用のセット（机、イス等）を運用することで、時期や場所と問わない集客装置を仕掛ける、そういうことが可能とすることを想定しているものでございます。

事業概要については以上の6項目でございます。

交付対象事業に要する費用といたしまして、1,527万6,000円でございます。

事業の開始時期につきましては平成28年10月、事業の終期につきましては平成31年3月でございます。

先駆性に係る要素といたしまして、まず①自立性ということで、事業推進主体であるDMOにより、会員企業から会費収入や寄附金を確保し、また、本交付金を活用し、新たにコミュニティビジネスの形成を試験的に実施し、自立性を高めていきます。

さらに、地域ファンドを創設し、活用することで、より確実に収益が確保できる構造を構築します。

②としまして、官民協働ということございまして、行政につきましては「政策」「地域間コンセンサス」、民間さんにつきましては「地域ファンド」「収益事業」、大学につきましては「調査・研究」「シンクタンク」など、各々の得意な機能を連携し、一つの目的を共有した事業体をつくることで戦略的、効果的な事業を行うというものでございます。

③につきましては、政策間連携ということ、この切り口を「観光」とすることによりまして、裾野の広い事業展開が可能となります。同時に効果的な事業とするため、各関係部局が協議するきっかけをつくって、継続的連携の土台をつくるというものでございます。

④地域間連携でございます。DMOが中心ではございますが、これまで事業を行うにはネットワークの重かった広域組織のデメリットを解消し、より迅速に、より効果的な事業展開を広域地域連携で行うものでございます。

⑤としまして、事業推進主体の形成ということございまして、近江ツーリズムボード、それから彦根市、農業関係団体、ガストロノミー関係有識者でございます。

⑥といたしまして、地域創生人材の確保・育成ということございまして、運営のまとめ役や新観光産業創出のための人材を確保し、即戦力の人材につきましては企業や国、県

からの派遣、人事交流、大学からのスポット派遣でございます。

育成人材につきましては、公での募集、それから関係大学の関係者、経営者の関係者を通じた情報提供。それから人材育成、OJTにつきましては、先進地研修、産官学金連絡育成会議等でございます。

本事業における重要業績評価指標、KPIにつきましては、指標値が観光入込客数35万2,000人、年間でございます。目標年度につきましては、平成31年3月でございます。

本年度におけます重要業績評価指標の目標でございます。指標値につきましては、観光入込客数が339万5,000人でございます。目標年月は、平成30年3月でございます。

続きまして、資料4でございます。

こちらにつきましては、地方創生交付金に係る事業実施結果報告でございます。

こちらにつきましては、②交付金の種類としまして、推進。

③実績額につきましては1,494万2,769円でございます。

④本事業における重要業績評価指標につきまして、指標、観光入込客数、指標値につきましては年間339万5,000人、目標年月が平成30年3月ございまして、事業終了後におけます実績値、⑤でございます実績値といたしまして、平成29年観光入込客数が341万7,600人ございまして、料理セミナーは3回開催、料理人につきましては計52人の参加、フードカーにつきましては3台ございまして、年間延べ53台稼働ということで、「梅あかり」5日間、計1,330人の参加ということでございます。

事業効果といたしましては、観光入込客数の指標については、目標を上回る結果となりました。また、本事業の直接的な効果としては実績値のとおりですが、間接的な効果を含めると一定以上の効果があったと思われます。

さらに、今後の方針といたしましては、事業を追加等し、更に発展させたいと考えています。その理由といたしましては、平成29年度事業について、計画事業に関しては、すべて実施はされ、今ほど申し上げましたとおり、一定以上の効果があったと思われますが、イベントの集客数やフードカーの稼働実績等がやや低調であることや、食材のブランド化のさらなる推進等に課題があると思われます。

こうしたことから、事業最終年度である平成30年度は、補助事業者である近江ツーリズムボードに対して、適切な支援を行うほか、これまで以上にこまめな状況報告を求める

ことや事業の遂行の指示などを的確に行っていくことで、着実な成果を上げ、最終的な目標を達成していきたいと考えております。

説明は以上でございます。

○会長

ありがとうございました。

ただいまご説明いただきました事業について、評価を行うということでございます。

事務局のほうからは、事業の目標として設定された総合戦略のK P I 達成に有効であったか、無効であったかの判断をするように求められております。

したがって、それについてどう考えるかということでございますので、よろしく願いいたします。

本事業に対するご意見ございますでしょうか。資料としては今ご説明いただいた2つでございますが、いかがでしょう。

これまで昨年度取り組まれた状況について、質問あるいはご意見、そしてさらにここを取り組むときにより効果を高めるためのアイデアとか、そういう観点でいろいろご意見をいただければと思います。

反省すべき点についても、次盛り立てていくためにはどういう視点でやればいいのかというところをここでご意見、ご議論いただければと思いますが、いかがでしょう。

○委員

委員であると同時に近江ツーリズムボードの実施主体に近い立場もありますので、若干意見になるのか説明になるかわからないところあるんですけども、申し上げたいと思います。まず大前提としまして総合戦略の中の7ページですけど、基本目標にありますとおり、人口が減る中で交流人口をふやしていくというのは、これは大前提として一つ目的があると思うんです。

その中で、文化や歴史資産、農林水産物などの地域資源を生かして観光産業を活性化させるという大きな基本目標があるわけで、これに沿って事業をやってるわけですけども、観光集客といいますと、昔と変わってきたと思うんです。

何が変わったかといいますと、まず彦根の課題ですけども、やはり宿泊者をふやしていくと、いかにふやすかと。というのは、消費単価が全然違いますので、4倍ほど違うんで、あるいは定住人口1人に対して非常に大きな効果があるというふうなことになるので、これはよく言われる宿泊客をいかにふやすかと。

それと、もう一つはバスツーリズムといいますか、バスで団体で来たということじゃないに、できるだけ長い時間いていただいて、そして滞在していただく。富裕層とまで言えるのかどうかわかりませんが、ある程度そういった方々に来ていただくということが外貨を稼ぐということでは非常に観光効果はあるというふうに思うわけです。そういった中で彦根の場合、そういう今言いました宿泊をふやすということと、それから冬場に落ち込むわけです、観光客シーズンオフですので、それと食との結びつきですが、観光旅行の目的の中で、これははっきりとデータが出てるんですけども、例えば外国ですけど、欧米ですと第2位が食が目的、アジアでも第3位が食を目的に来られると。リピーターも食物があるところにはリピーターも多いというデータも出てますので、そういうことで食という非常に観光と密接な関係持ってるということで、食への取り組みということで、宿泊と、それから冬場、それから食は、非常に彦根全体の今まで弱い部分だったかなと思うんです。

その課題に視点を当てて取り組みやってみて、これを結果を出すのはなかなか簡単な話ではないと思うんです。私、非常に時間かかるなどやってみて思ったんですけども、まず食の素材の開発です。初年度は3品それが3品目、それから2年目に3品目、さらには平成30年度で3品目と、プラス、アスパラということで別事業もやられてると。そういうものをまず発掘、育てることから、そしてそれをさらにある程度のレベルの高い食に仕上げていくために、若手料理人を集めて一流の東京から呼んできて料理セミナーをやって、それで育てるというふうなことで、そのセミナー、料理人のセミナーも非常にアンケート結果では100%から93%非常によかったと、勉強になったと言われてます。次の日にはやはりその料理屋に試作品として出ましたしね、そういうことで、近い将来にはその料理人が主体になって美食クラブのようなものを研究と、そういうふうな連携を進めていくためのものやっていたかと。

今までは、料理はそれぞれがばらばらにそれぞれやられてましたけども、よそでよく進んだところがやられてるのは、お互いに研究会をつくって、そして和洋中関係なしにいろんな素材を展開して創作をやっていくということで食のレベルを上げていかれてますので、そういった自主的な運営に移行していくということで人材を育てていくというふうなことです。非常にいずれも時間がかかる話だということは感じとして持ってるわけですが、やはり観光集客をこれから目指して、地方創生で人口減対策ですので、単に人口減、人口はそこそこいくんですけども、生産年齢人口と年少人口は大きく減りますので、

20%近くも。そういうときに、これある程度時間をかけながらも集客戦略と、それから消費というのは育てていくということは、非常に重要な意味があるなというふうにやりつつ、成果という点では非常にまだまだ課題も多いし弱い点はあるんですけども、時間をかけつつ、ある程度こういった連携しつつ、レベルを高めていくということが重要ではないかなというふうに思っております。

○会長

ありがとうございました。

ほかにどなたかご意見ございますでしょうか。

○委員

読めばわかるのかもしれないんですけど、教えていただきたくて質問させていただきません。

先ほど言われてましたように、観光客の関係、集客の関係なんですけれども、これって分析っていいですか、来られる方々の外国の方であるとかいろいろあるかと思うんですけども、その分析っていうものはされていらっしゃるのか。

また、あとPDCAのこの進捗管理っていう部分で、先ほどご説明がございましたように効果ですね。効果の関係で、それを達成したというふうにはなってるんですけども、寄与としてはわずかであったというようなことなんですけれども、そこら辺の進捗管理っていうのがどういうふうになっているのかなというのがちょっと知りたくてご質問をさせていただきますんですけど。

○会長

いかがでしょうか。

○地域経済振興課長補佐

失礼いたします。

観光客の分析につきましては、観光客入込調査という調査がございまして、一定把握をしております。その総合計がこちらで示させていただいている341万7,600人という結果でございます。

ちょっと手元に詳しい資料を持ってこなかったもので、外国人と日本人の割合までご説明できませんが、日帰り客が300万4,200人、宿泊客を合わせて341万7,600人という結果でございました。

事業の進捗管理でございますけれども、補助事業でございますので、全てやっておられる

事業に我々参画してるわけでもございませんので、つまびらかにというところではございませんが、時期を見て一般社団法人の近江ツーリズムボードさんとはコミュニケーションをとりまして、折に触れて、例えばフードカー稼働の今後の予定とか年間の事業どこまで進捗してるかというのは、2カ月、3カ月に1回は確認をさせていただいてるところでございます。

以上でございます。

○会長

よろしいでしょうか。

○委員

ありがとうございました。

○会長

ありがとうございました。

○委員

協議会へ効果があったのかどうかを検証するという観点であれば、K P Iの全ての表ができてる。まず、これは評価できると思うんですけど、具体的な料理セミナー3回、52人参加、フードカー3台で53台稼働、「梅あかり」5日間で1,330人。このデータだけで効果があったかどうかを判断しなさいって言われると、非常に厳しいのかなと思います。せめて料理セミナー3回開催したことで52人が参加されて、新たにこんなにメニューがこうなるとか、そういう資料、今後の協議会の進め方全般でもそうなんですけど、そののところをもう少し分析して示していただけないと、協議会としては判断がしづらいのかなと思います。

先ほど別の委員からも話がありましたとおり、そんな簡単に結果が出るとは私たちも思っただけなんですけど、今後息長く続けていくためにもっていう評価を協議会がするためにも、もう少し実績値のところの詳しい効果のところをお示しいただければと思います。

○会長

いかがでしょう。もう入込客数だけでぼっとやってしまうと、昨年410年祭もあっていろいろな催しがあったから、この食のイベントだけでどれだけっていうのはなかなか分析がしにくいだろうというご意見かなと思うんですけどね。

だから、次回、次の段階ではどれだけのメニューが開発するとか、そういうレストランもK P Iも入れて、それできましたと。それで最終目標は宿泊する人数が幾らぐらいか、

日帰りが幾らぐらいかという、そういうふうな個別のKPIも入れたらどうかというご意見かなと思うんですけど。

○委員

そうですね。最終的に公表するのはこの入込客でいいとは思うんですけど、あくまでも協議会でそれを評価する以上はもう少し詳しいデータがないと、逆に私たちも責任を持って評価ができないのかなという、そういうことでございます。

○会長

ということで、どう評価するかというのは非常に難しくなってきましたけれども、所定の目標は一応達成してることになってるわけですね。入込客数で言えば100.6%ですか。だから、一応の効果はあったかなとは思うんですけども、ただ先ほど委員が言われたように、時間が結構この結果を出すにはかかるんじゃないかというお話もございまして、この取組で何を目的にするか、これでこの事業が終わった時点でもうさよならって話じゃないと思えば、やっぱりこの仕組みをいかにつくって、それが事業の後もうまく仕組みが回っていくような形で作り込んでしまわないと、余り意味がないだろうと思います。

勝手に言わせていただくと、我々の大学のほうも補助事業をですね、文科省でとってきたりするんですけども、終わった後も継続しろというのが絶対ついてくるんですね。そうすると何をするかっていうと、それを事業の中の5年なら5年の間にどのような形で仕組みをつくって、その仕組みが終わった後もうまく回るような形で作り込んでいくということに頑張るんですけども、だからこれも今、委員が言われたように、料理人さんが後でワークショップするような土俵をつくるとか、それ食材はそしたらどんなところから調達できるかとか、そのルートがしっかり根づいてるかとか、そういう形のもう少し具体的なところでKPIを設定して、仕組みというものをどういうふうな将来的なイメージでつくっていくかというふうな形で考えれば、もう少しブレークダウンした個々のところのイメージが出てくるかなと思います。

だから、もう少しその辺を掘り下げて考えていけば、さらに実態が見えてくるかなとは思うんですけど、どなたかもう少し何か。お願いします。

○委員

おっしゃるとおり非常に難しいなといろいろ考えられると思うんですけども、入込客というのほかの要素がたくさんありますので観光というのは、集客自体は。ですから41

0年祭もありますし、それをもってということはなかなか評価が難しいと思いますし、例えばセミナーの関係で言いますと、これはKPIとかいうよりも代替的な数値としてどうかと思ったのは、中華と和食とフレンチとだったんですけども、それぞれ16人、17人、19人という市内のシェフが参加をしまして、最終アンケート調査では非常によかったというのは93%から100%というふうなことで、初めての試みで非常によかったというふうなことで言われておりまして、その中でそれぞれ3つの食について地元食材を11種類、そして2回目は10種類、3回目は16種類というふうなことで、初めて地元の生産者と結びついて、そしてそれを素材の確保していったということで、そしてそれぞれの店の中でそれを提供していったということで、段階的には今のところそういう段階で、食の数とかアンケートとか、そういうことしかなか今のところ第1次的には出しにくいんですけども、それをおっしゃるようにもう少しちょっとレベルを上げていって、客観的な評価できるようなものを私どもとしてもつくっていかないかなと思っています。

○会長

ほかの委員の方、いかがでしょうか。

○委員

気になった点とかそういうのでお伺いできればと思うんですけども、実際にいろいろちょっと私もこの今回初めてこの事業というか、セミナーだったりとか「梅あかり」というものを実施されたというのを知ったことになるんですけども、そういったものの告知であったりとか、この52人参加というのが実際に多いのか少ないのか、飲食店でいうと結構ある中で来られてるものなのかというのがちょっとわからない部分もあって、その52人参加が多いのか少ないのか、声はどういうふうにかかっているのかとか、そういった面でどういうふうに告知されていたのかなってというのがちょっと気になりました。

○会長

はい、ありがとうございます。52人というのはあれですかね。所属レストランというか、それ別々、52店というんじゃないかと。

○地域経済振興課長補佐

3回の合計でございますので、重なってる部分はあるかとは思いますが。

○会長

延べ人数。はい、ありがとうございます。よろしゅうございますか。ほかに告知についてはいかがなですかね。

○地域経済振興課長補佐

告知につきましては、今回の事業は大体事業費として1,500万円弱の事業でございますが、そのうち450万円ほどを広報に使っていただいております。それはこの料理人セミナーだけではございませんけども。ですので、実績報告等を見ておりますと普通の通常のチラシですとか、広告だけではなくて幅広く、例えばFMラジオを使ったりとかテレビを使ったりとか、幅広くはしていただいていると認識してるところでございます。

以上です。

○会長

ありがとうございます。それは彦根市内に限るということでしょうか、それとも滋賀県内全域でしょうか。

○地域経済振興課長補佐

テレビについては滋賀県内でございます。

ポスターにつきましても、特に「梅あかり」などでは市内、県内に限らず広域的にやっていただいているところがございます。大阪とかにもしていただいたりとか、通常、市でやる広報よりもかなり先進的にやっていただいているかなというふうに思っております。

○会長

ありがとうございます。ということです。

ほかにもございますでしょうか、ご意見。

先ほど委員から言われたように、宿泊客をいかにふやすかとか、長時間の滞在者をいかにふやすかとか、それと冬場の落ち込みをどう補填するかということと食との取り組みを結びつけていかないとだめという話になるんですね。

食、フードカーが出ていくと、結局それでまずはこんなにいいものが、おいしいものがあるよというのを宣伝して、それがそしたら、さらにゆっくりとどこでだったらおいしくいい風景を見ながら食べられるように、ゆっくりしてお酒も飲んでという話にうまくつながっていくようなストーリーから何か考えられないのかなと思ったりするんですけども、これは次のどういうふうなあれですね、より効果を高めるかのアイデアにつながるのかもわかりませんが、まずはどうしましょう。

昨年度やられたこの取組について、所定の成果は得られたとはいいがたいというふうに評価するのか、一定の効果はあったと見るのか、その辺いかがでしょう。この食の話は結構時間がかかるということもありますので、さらに継続してやる意味はあるというふうに

考えるのか、その辺は委員の方々のご意見いかがでしょう。

○委員

継続でやっていけばいいのだと思いますし、単年度、単年度で全ての結果が出るものではないので、そうすべきだと思ってます。

ことしのライトアップの関係でも、やっぱりことしは思ったより桜が早く咲いたのでライトアップの時期でも、じゃあそれで臨機応變的に期間を変えられるとか、そういうことまではまだ動かせないというのが多分あるかと思うんですけど、そういう自然も状況がころころ変わりますから、環境が。それに対して適時に対応をとれるようなものも必要ではないかなと思います。

梅の関係でも、余り外からは目立たなかったんですね。梅のライトアップやってますよというのは、周りから余り見えない。外堀を走って、お城の周りを車が走っていても、じゃあ梅のところだけがライトアップされたんでは全くわからないし、市内の者はいろんな広報なり資料を見てますからわかります。機会あったら近くまで行きます。ただし、一般観光客の方はそのころは帰ってまいりますし、おられない。結局行ってるのは市民が行くだけというのが今の繰り返しになってるんで、やっぱりその辺は近隣の宿泊施設に情報提供をもっとしていただく。

たまたまこの前井伊神社でエキシブ琵琶湖の担当の方が圓常寺や大師寺、龍潭寺、清涼寺、大洞弁天の周辺を散策されてたんですね。聞いてみたら、やっぱり宿泊していただいても近隣にどういうものがあるかというのが、情報をもっと自分で探しに行かないと今ないんですと。逆にそういう施設の方が、今言ったようなこういう近江の美食の関係でももっと近隣の宿泊施設にアピールすれば、逆にリピーターを呼んでいただける。それは最近近くにホテルも建ってきましたし、既存のホテルは当然全国チェーンですから、もっとプラスになってくるという意味で言えば、こちらからもっと情報発信もされてますけれども、よりもう少し細かくしたほうがいいんじゃないかなというふうにはちょっと感じました。

○会長

ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。お願いします。

○委員

先ほどのお話からすれば、時間のかかることですし、この料理セミナー3回についてもこれだけ好評だったとか、フードカーについてもそれなりの効果はあったんだろうと思う

んですけど、今日は担当課からその説明なかったのですが、そうした説明があれば、少なくとも最初の一步は踏み出すことができましたよと、平成30年度以降こういうことに力を注いでいけば、最終の目標は達成できるじゃないかとか、そういう評価ができるのではないかと思います。

○会長

その説明が、事情をいろいろ説明を受けた中で、こういうところを考えると今後の期待は十分持てると、ただ時間がかかるというような書きぶりにすればわかるということだと思います。だから、一定の効果はあったというふうに判断したいということではないでしょうか。

○委員

そういったことを具体的に説明していただければ、評価はできると思います。

○会長

確かにそうだと思います。数値だけには表れてこない部分について補足し、もう少し分析すると、効果があるという評価になると思われます。ほかの委員の方いかがでしょう。今のご意見についてご賛同いただけるか、あるいは反対か。もう少し違うという意見あればご発言いただきたいんですが。

今お話しした基本路線でよろしゅうございますか、内容的には。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

では、その辺は具体的にまたちょっと事務局と相談して調整させていただきます。

○会長

あともう少し具体的に、どうしたらさらにブラッシュアップできるか、効果に結びつけるか、あるいは仕組みづくりになるかというところを少しアイデアをいくつかいただいて、今後の取り組みの参考にしていただければと思いますが、ご発言いただければと思います。いかがでしょうか。

私からまず言わせていただくと、この料理にしてもどういう食材で何をつくるかというのはすごく興味があるんですけども、いろいろと和食とか洋食もありますし、季節ごとに料理が変わってくるんですね。和菓子見てても季節ごとにまた違うし、そうすると1回行って同じ料理がまた出てきたら嫌やけど、季節ごとにまた魅力が変わってくるから、四季折々の楽しみがあるような何ていうんですか、料理をしつらえていくというか、それでア

ピールしていくと、そういうふうなところを地道にやっていけば、それを発信してさらに人を引きつけていくんじゃないかなと思ってます。思うっていうか、それは一つの私のアイデアですけども。

あと、ホテルの料理人さんともコラボするか、その辺がこの52人の中に来られてるのかどうかよく私にはわからないんですけども、そうすることによってホテル自身から発信力が出てくるかなと思ったりするんですけども、いろいろ意見ですとか、皆さんほか提案いただければと思うんですが、いかがでしょう。

○委員

また質問になるかと思うんですけども、集客をやはりふやしていこうという、観光客ですかね、これをふやしていこうということなんですけれども、例えばやり方かもしれないんですけども、SNSをもちろん使ってらっしゃるんだろうなというふうには思っておるんですけども、そこら辺はどんな感じなんですかね。

○地域経済振興課長補佐

こちらの事業で特に広報戦略のほうでは、広報戦略につきましてはSNSの仕方としてインスタグラマーによる告知、Instagramを使ったものですね。さらに、事業のうち広報部分じゃなくて実際の事業ベースで見ますと、料理グランプリの開催というところがあると思うんですけども、こちらの一般の方の投票につきましてはSNSを活用してする仕組みをとっていただいておりますので、一定使っていただいているという。

○委員

それはどの程度反応があるというのはきっとわかるだろうと思うんですけども、どうでしょうか。

○地域経済振興課長補佐

すいません、ちょっと我々がいただいている実績報告では、具体的な数字まではちょっと回答はわからないので、また聞いておきます。

○委員

そうですね。非常にそれって興味がございまして、結構その反応が知りたいなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

○会長

ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。

3種類程度の食材について調査と書かれてる。これは具体的には何になるのか。アスパラガスは先ほど言われてましたけど。

○地域経済振興課長補佐

すみません、3種類の食材につきましては、平成29年度におきましては多賀ゴボウ、米原市にあります赤丸カブ、多賀のトマトでございます。

平成28年度につきましても同じく3種類調査、発掘をしているんですが、秦荘の山芋、多賀のニンジン、そして米原ですが、伊吹の大根というところでございます。

○会長

ありがとうございます。それを使つてのあれですかね、料理ということ。

○地域経済振興課長補佐

料理も含めまして、報告書をつくっていただいているところでございます。

○会長

これならではの料理っていうのは何かあるんですかね。

○委員

素材は今言っていたようなことで、3年目は候補ですけど、豊郷のとよ坊かぼちやとかですね。それぞれ今言われたのは非常にレベルは高いんですが素材自体は、ただ生産する方がもう高齢になったりとか、量が少なくて流通に乗らないとか、非常に素材はいいんだけどもそういうことですので、それをやっぱりもう一遍生かしていこうということも発想にありますので、それを使つて和に限らずフランスでも、中華でも、いろんな工夫の仕方で料理ができるということは、今回セミナーの中で去年、ことしで勉強されましたんで、オリジナルな創作の料理が出てきますので、デザイン性も非常にすぐれてますので、そういったものをできるだけ開発して、そして非常に去年よかったのは、やっぱり発信力と、それから告知が非常に直前、実際にみんななりましたので事業に追われて、それは非常に大きな反省点ですので、そことあわせて発信をしていくということで、外に向けても市民の方もそうですけども、もっと知っていただく、「梅あかり」もそうですけども知らない方が多いですので、周知をしていくということが一つの大きい決め手になるのかなと思います。

○会長

ありがとうございます。ということで、あとどこかのレストランでそれを出せばぱっと

インスタグラムに載せてもらってとか、そういうふうなんがうまくひっかかってくれば、すごく発信力が出てくるかと思うんですけども。

やっぱり昼のレストランでもそういうふうな何ていうんですかね、魅力的なやつがぴっところ旅行者にうまくマッチすれば、このごろ皆携帯で撮られますよね。そういうのがうまくいけば一番いいなと思うんですけど。

だから、ゴボウならゴボウでも、これはほかのゴボウとどこが違うっていうのが見てわかるというかね、その辺が非常に発信できれば一番いいなと思いますけど。

ほかに何かございますでしょうか。具体的にそしたらどういうふうに進めていったらいいでしょうか。効果を高めるためのアイデアをお伺いしましたけども、1つはKPIをもう少しブレークダウンした形で設定していただけないかなということですね。

それと、あと少しトータルでの仕組み。今言われたような高齢者でしか生産できないものを、いかに若い方が関わってもらって生産できるような体制に持っていくのか。要するに、農業人口をふやすということにつながるかもわかりませんが、それは一つの仕事が創出されることにもつながってくるわけで、それとあとその料理を考えていただく。そして、おいしいよというのをどのように発信していくか。フードカーでいかに宣伝するか。これフードカーだったらどこへでも出かけられますから、すごく県外のそういう催しにも出られているわけですよね。そういうところをいかにキャッチしていくか。

それと、1つ気になったのは、希少な野菜だったら量が少なくてもいい。だから、一流料理人の三ツ星シェフで高級な料理を提供するという戦略がいいのか、あるいはもう少し広くそれを一部使って、値段設定も少し多くの方に食べていただけるような値段設定を考えて、より味わってもらって発信するのか、その辺がすごく一つの何ていうんですかね、ポイントかなと。余り誰でも来てくださいという、そういう戦略は余りよくないかなと僕は思うんですけども、その辺は委員の方々のご意見があれば。

製品開発でも物すごく高価なやつを考えると、市場が小さくなってマーケットトータルは余りふえない、ボリュームは出てこないんですけども、ある程度汎用に近づくとマーケットが大きいでトータルの値段は大きくなるんですね。だから、そういうふう考えたときに、生産量にもよりますが、どういうターゲットにするかというのは物すごく私としては気になるところです。その辺、もしか委員の先生方にご意見あればお願いしたいと思いますけど。

○委員

極端なこと言ってしまうと失礼になるかも知れませんが、例えば夢京橋キャッスルは単価が高いというのは、いろんな方から耳にします。

やはり、なぜスイスのハンバーグがよく売れるのか。今、松原で、昔のパリヤさんの輪ごんのハンバーグをしていた方が、輪ごんハンバーグが今火がついて非常に予約入っているという具合に、やっぱり身近なもので皆さんに食べていただく。昔懐かしいもの、プラスチック新しいもの。そこに地産地消というものが生きてきたら、もう一つ延びていくというところで、やっぱり新しいものばかりもそれは大事だと思うんですね。しかし、昔懐かしいものを懐かしむ方。僕らで言いますと、最初に食べたエビフライは輪ごんやっただかね。なかなか難しい、新しい方は知らないかも知れませんが、とか洋食食べるんやったらあそこがやっぱり人生で初めて食べた。それが今またある程度の年齢になってきて余裕が出てきたので、昔懐かしい味を食べられる。その地産地消というアスパラが入ってくる、多賀のニンジンが入ってくる。いろんなものが入ってきて、その中にも、メニューの中にもこういうところも使ってるんですよということをお店のほうもアピールしてもらおうというような形をすれば、広く広がっていく。そして、今やないですけどインスタ映えすれば、すぐにリピーターなり新しい客が行列をつくってでも並んで食べてもらえる。

けども、それが2,000円、3,000円もしたら誰も食べないですよ。1,000円、そこ1,000円だったら皆さん来ていただけるというのがあるんで、そこはやっぱり先ほど会長が言われたように、間口を広げて安くして多くの方に知ってもらうというのが大事なのか、ある程度のゲストだけを目当てにやるのかというそこらは大事なところだと思いますね。

私は、どちらかというくと安くて幅の広いほうが庶民的でいいではないかと。リピーターも来ていただきやすいという部分もあるかと思いますがね。それでやっぱりトータルでふえればオーケーというのが、これからしていかなければならないことだと思います。

○会長

ありがとうございます。

ほかにございましたらお願いします。

○委員

例えば、彦根に来たらこれは食べんといかんとか食べて帰らないかんとか、そういうものをつくっていかないかというところも一つあると思いますし、いずれにしても素材という

のは物すごく大事だと思うんですよ。いかに素材のレベルを上げていくか。

同じものは全国にたくさんありますので、我々もアスパラガスを東京のレストランへ試作持っていったもらったんですけど、ホワイトアスパラなんですけど、やっぱり物すごい厳しい評価をいただきましたけどね、もっとレベルを上げて行って、でないレストランで使えないと言われてましたし、もう一つ素材大事やというのは農商工連携してもらう1次産業そうなんですけども、今まで1次産業が非常に流通という視点がなかったもので、非常に単価が安く収益が上がらなかったわけですよ。

ところが、いいものをつくることによって流通にそれを乗せる。それで、第1次産業の所得も上がってくることになるんで、料理のことと、それから生産者のこと考えると、やはり素材をまずレベルを上げていくということ、それから難しいですけども、マーケットに乗せていくということですね。この両面がないとなかなか難しいんですけども、やはりそういう点では先ほど挙げたような素材というのは、昔からある程度のレベルはきてますんで、それをさらに磨きかけて生産者を育てていくということかなと思うんですけど。

○会長

ありがとうございました。

ほかにございますでしょうか。

ということで、その辺戦略をどう考えるかというのは、非常に貴重なご意見いただきましたけども、広くおいしさを知ってもらおうということと、その中で少し理解してもらった人には、高級食材を、三ツ星シェフの料理も味わってもらおうというふうな、そういう2段階構えが一番いいかなというふうに思いますけども、その辺もちょっと事務局もまたいろいろとご検討いただければと思いますけど、よろしゅうございますかね。

では、ここの結論といたしましては、先ほど言われた委員から出た意見を基本に評価するというので、今後へいかにつなげるかというのがすごく期待できると。今後の戦略次第ということにはなろうと思いますけども、それでよろしゅうございますか、評価としては。

では、各委員のご意見がまとまりましたんで、これで評価、今後の効果を高めるためのアイデアというところは、ご議論を終わらせていただきたいと思います。

本事業につきましては一応効果があると、一定の効果はあったということで終わりたいと思います。

それでは、これをもちまして本日の次第にありました議題は一応審議は終了ということ

でございますので、この際でございますが、何かご質問、ご意見ございましたらお受けしたいと思いますが、よろしゅうございますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○会長

では、特にないようですので、本日の会議はこれにて終了したいと思います。

それでは、進行を事務局のお戻ししたいと思いますので、よろしくお願いします。

○地域経営・地方創生推進室長

ありがとうございました。会長、円滑な進行をありがとうございました。

本日、議論の中でご指摘いただきました資料の表現の仕方であったり、あるいは掘り下げた資料の提供の仕方というのは事務局のほうでも協議をして今後の資料提供として考えていきたいと思えます。

委員の皆様におかれましては、本日はお忙しい中、本協議会にご出席をいただきましてまことにありがとうございました。

これにて会議を終了させていただきます。本日は本当にありがとうございました。

(終了)